# 子育て中の母親のネットワーク構築過程の検討

## ―「社会的代理人」利用に関する自由記述を用いて ―

○片桐咲恵[1]・西村太志[2]・小杉考司[3]
([1]山口大学大学院教育学研究科・[2]広島国際大学心理学部心理学科・[3]山口大学教育学部)

### 問題・目的

近年，子育て支援に関する取り組みが各自治体で積極的に行われている中，友人や親族とともに母親自ら形成するネットワークの重要性も示唆されている(久保，2001)。そこで本研究では，多様なネットワーク・サポートを有するための母親の行動として「社会的代理人」に着目した検討を行う。Bradshaw(1998)が提唱した社会的代理人仮説によると，対人関係構築に苦手意識を持っている人でも，既知の人物(=社会的代理人)を伴い，社会的代理人が相互作用を支援することで不安が低減し，対人関係を拡げることができる。片桐ら(2016)はこの仮説に着目し，母親は対人関係構築の際に配偶者や母親自身の親を社会的代理人として優先的に利用していたことを示しているが，社会的代理人の活用内容や過程は確認されていない。対人関係構築について文脈を踏まえた内容把握のためには，質的なデータからの検討が必要である。以上の事から本研究では，社会的代理人となり得る対象別の利用過程について，自由記述から検討することを目的とする。

### 方法

調査手続きは，片桐ら(2016)と同様である。

調査時期：2015 年 10 月に実施（web 調査[1]）

調査対象者：就学前の子どものみを養育している全国の女性 600 名を対象とした。

調査内容:社会的代理人となり得る対象(配偶者，配偶者以外の家族，友人・知人）を設定し，利用の有無を尋ね，具体的な経験内容については自由記述(150 字以内)で回答を求めた。

### 結果・考察

回答に論理的矛盾が含まれる 55 名を除外し，545 名(平均年齢：30.60 歳)を分析対象とした。まず，対象者別について利用の有無を確認したところ，約半数の母親が各対象者を社会的代理人として利用しており，母親自身の人とのつながりを増やすために一緒に行動していたことが確認された。次に各対象者を伴った経験の自由記述について KHcoder(樋口,2014)を用い形態素解析し，集計した。自由記述から抽出された語句と社会的代理人の関連性(対応)を確認するため，対応分析を行った。その結果を図 1 に示した。なお，出現回数はのべ数であり，差異が顕著な上位 50 の語句を使用したため,布置された語句は出現回数によらない。

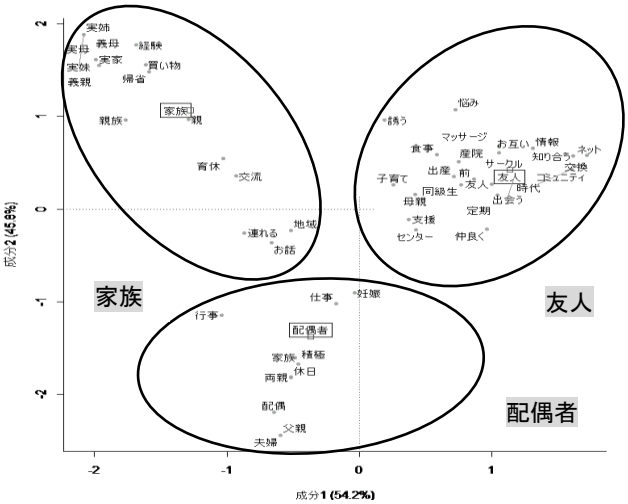


図 1 対象者と抽出単語の対応分析

図 1 や自由記述内容により示されたことは以下 3 点である。(1)各対象者の近くに布置された語句をみると，配偶者では「休日」(図 1 下)，友人では「センター」(図 1 右上)など，交流場所またはその内容と各対象者との関連が示された。(2)つながりを増やすために行動した結果，その後の関係の維持にはばらつきが確認された。相戸(2001)は，母親の子育てイベントや活動への参加理由として，ストレスや孤立した子育て環境の打開と，子どもの発達において交流が必要だと思ったと挙げた母親が約 8 割いたことを示している。本研究でも，友人の近くに示されている「同級生」の語句（図 1 右上)を含む，同年齢の子ども同士の交流を意図していた記述が確認された。対人関係構築に伴う行動意図に子どもの利益となる交流の期待が考えられる。(3)友人の近くに示されている「ネット」の語句（図 1 右上)を含む記述に SNS を活用した関係構築も確認され，関係構築手段の多様性が示唆された。安藤(2013)は，SNS が母親同士の友人をつくる媒体となることを示している。これは母親自身に利益となる関係構築と考えられる。ニーズを踏まえ，子育てイベント活動の場や対象者の工夫により関係構築が促進されると考えられる。

＊1）本研究は JSPS 科研費 15K01787 の助成を受けた。